

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径

No.133

2019 November

11月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生

今月のことば

ろん こ よ
論語読みの
ろん こ し
論語知らず

書物に書かれていることは理解していても、それを実行できない人に対してあざ笑っている言葉です。

さまざまな教育課題への対応

- 学校教育には、環境教育や福祉教育、伝統文化教育をはじめ、新たにプログラミング教育、持続発展教育、主権者教育などさまざまな教育課題への対応が求められています。
- 指導に当たっては、教育課題と各教科等の指導内容や教材との関連を図り、横断的に指導します。『総合的な学習の時間』を活用する方法もあります。

今月の みかんの日
記念日 (11月3日)

「いいみっか(3日)ん」の語呂合わせです。全国果実生産出荷安定協議会と農林水産省が制定しました。12月3日もみかんの日です。
--

多様な社会的な教育課題

いま学校には、教科の学力を高めることはもとより、教科横断的な課題と言われるさまざまな教育課題への対応が要請されています。

教育課題には、道徳教育や健康教育や安全教育をはじめ、国際理解教育や環境教育、情報教育、福祉教育、人権教育、消費者教育、開発教育、食育、防災教育、伝統文化教育、エネルギー教育、障害児(者)理解教育、男女平等教育、性教育、金融経済教育、租税教育、法教育、喫煙防止教育など枚挙にいとまがありません。最近では、プログラミング教育や持続発展教育(E SD)、主権者教育、がん教育、年金教育など新しい教育課題も提起されています。

これらの教育課題は社会の変化に伴って、新たにクローズアップされてきたものです。1980年ごろまでは、一部の教育課題を除いてほとんど耳にすることはありませんでした。

学校での授業の本拠となる場合は、教科を中心に特別活動や総合的な学習の時間です。子どもたちが日ごろ目にする時間割表には、ここに示した教育課題の名称はありません。

そのため、これらの教育課題が提起

されると、「これらの課題をどこで指導するのか」「そのための時間をどう生み出すのか」といった声が出されます。こうした課題や悩みに対してどのように対処したらよいのでしょうか。

教育課題にどう対応するか

教科横断的な教育課題について指導するための時間は特に用意されていません。そのため先の疑問には、「全教育活動を通して実践する」という原則が返ってきます。しかし、何の意図も計画もないと、結果として、どこでも指導されないこととなります。

「全教育活動を通して」とは具体的にどのように進めればよいのでしょうか。そのキーポイントは、意図的に計画し意識して実践することです。そのアイデアはいくつか考えられます。

まず、重点的に取り上げる教育課題を選定します。そのうえで、その課題が指導内容や教材・題材、あるいは学習活動のレベルに関連している教科等において意図的に指導します。例えば伝統文化教育は、国語科、社会科、生活科、音楽科、特別活動などで取り上げられます。算数科や家庭科、図画工作科、体育科も一部の内容や教材・題材が関連しています。

教育課題ごとに各教科等の指導内容

や教材・題材を抽出し、一覧表に整理すると、指導場面の全体像が見えてきます。指導に当たっては、教科横断的なカリキュラムを作成し、相互に関連付けた指導を進めます。

『総合的な学習の時間』は、何をどのように取り上げるかが各学校に委ねられています。総合的な学習の時間には、教育課題を集中的、重点的に指導するための時間として創設された経緯と趣旨があります。子どもたちに自己の生き方を考えさせ、「生きる力」をはぐくむ観点から、これまでの総合的な学習の時間の学習活動を総点検し、マンネリ化している活動をリニューアルするのもよいでしょう。

また、教育課題をそれぞれバラバラに取り上げるのではなく、学校として中核となる課題をひとつ選定し、それを中心に他の教育課題を関連付けることも考えられます。例えば食育を核にした場合には、健康、伝統文化、環境やエネルギー、国際理解などの課題と関連付けることができます。

こうした取り組みは、学校の教育課程全体を視野に入れ、教科横断的なカリキュラムを作成・実践することにはほかなりません。新学習指導要領では、教育課題を教科横断的に構想するカリキュラム・マネジメントを発揮することが課題になっています。

学級 経営の基礎

グループのつくり方

学級内のグループ（班）は、子どもたちが学校生活を楽しく有意義に送るうえで重要な意義と役割をもっています。日ごろの学習だけでなく、清掃活動や給食の準備と後片付けなど生活の場面でもグループが活用されるからです。また、授業で対話的、協働的な学びを展開させ、深い学びを実現するためにも、グループの構成の仕方が重要なポイントになります。

グループ編成を子どもたちに任せることもできますが、子どもたちに全体を見わたす調整能力や望ましい人間関係が醸成されていないと、単なる仲良し集団になったり、好きな人同士が集まったりしてしまいます。

教師の教育的な配慮のもと、意図的に編成することを第一に考えます。グループにはリーダーが必要ですから、まず班長を決定します。子どもたちに決めさせる方法もありますが、最初は教師が指名する方がよいでしょう。定期的に班長会議を開いて、リーダーの養成を行います。班長を一定の期間ごとに輪番制にすることもできます。

グループは学級での生活や学習集団の最小単位です。一人一人の持ち味や得意分野、生活や学習の状況を考慮することはもちろんのこと、子どもの人間関係には細心の配慮をしてメンバーを構成します。体育科の時間や遠足や運動会などの機会には、改めてグループを編成することもあります。

グループの人数は、学年の発達段階にもよりますが、3人から多くても6人程度に留めるのがよいでしょう。グループの編成の仕方についても、1年間の見通しをもち、子どもの成長具合を見ながら計画的に取り組みます。

教育の動向

児童虐待への対応

保護者等による児童虐待によって、痛ましい事故や事件が後を絶たず、社会問題になっています。こうした状況を受けて、文部科学省は「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」を作成し公表しました。

手引きは基礎編と対応編から構成されています。基礎編では、虐待の定義や種類、学校、教職員、教育委員会の役割について述べられています。

ここでは、虐待は保護者の成育歴、就労や家計の状態、居住状況、ストレスの状態、心身の問題、子どもの障害や疾病等の育児負担の問題、望んだ妊

娠であったかどうかなど、多様な要因によって起きるとしています。また児童虐待防止法を受けて、学校や教職員には虐待の早期発見と早期対応、関係機関への通告や情報提供を、教育委員会には関係機関との連携体制の強化・整備や研修の充実を求めています。

対応編では、日ごろの観察から通告まで、通告後の対応、子ども・保護者との関わり方、転校・進学時の対応について具体的に解説されています。

「学校における虐待対応」は、「通告まで」と「通告後」に分けて流れ図で示されています。また、虐待の発生予防のための「虐待リスクのチェックリスト」には、保護者への養育支援が必要になる児童等の様子や状況例が具体的に示されています。

北 俊夫の「実践と研究」の足あと

1

プロローグ

私は学校教育に携わってから、今年度で50年が経ちました。あつという間の半世紀でしたが、大勢の先達や同僚の先生方からいろんなことを学ばせていただきました。この時期、自分にできることは何かを考えました。その結果、これまで学んだことややってきたことを後世の方々に伝えていくことではないかと思い立ちました。

そこで、学校教育に関わる私自身の「実践と研究」を振り返り、その一端を「教育の小径」の小欄に紹介していくことにしました。このことが、現在学校現場で頑張っている先生方に何らかのヒントをお伝えすることができるのではないかと考えたからです。

私のこれまでの教職人生は大きく4つの時期に分けることができます。

I期は、小学校の現場に籍を置いていた時期です。勤務校は3校、14年間（そのうち1年は大学に派遣）でした。この間、学級担任として社会科を中心に授業研究に取り組みました。

II期は、教育委員会の指導主事として指導行政に携わった時期です。3つの職場で8年間勤めました。

III期は、文部省（現文部科学省）で教科調査官として、小学校社会科の学習指導要領の作成と普及に努めた時期です。期間は8年7か月でした。

IV期は、岐阜大学と国土館大学で教員の養成と教育研究に関わった時期です。17年5か月間勤めました。大学を離れてからは、教育研究に携わりながら、学校教育アドバイザーとして各地の研究会に出かけています。

次回以降、私の「実践と研究」の足あとを順に辿っていきます。

INFORMATION

ぶんけいの移行措置対応 しあげ教材

1年間の学習を
1冊で
まとめて復習!



国語・算数のしあげ
これでだいじょうぶ 1~6年



国語・算数・理科・社会のしあげ
これで完璧! 3~6年



4教科 充実の復習ページ
パーフェクト5・6年

編集後記

「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂のHPからお読みいただけます。ダウンロードして印刷も可能です。お知り合いの先生にもお勧めください。

ぶんけい 教育の小径 検索

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2019年11月1日